

第38回 青森県総合計画審議会

日時：令和5年9月8日（金）

16：30～17：15

場所：青森県観光物産館アスパム

4階「十和田」

（司会）

ただ今から、第38回青森県総合計画審議会を開会いたします。

本日は、審議会委員31名のうち22名の御出席をいただいております。青森県附属機関に関する条例に定める定足数を満たしております。

それでは、開会に当たり、知事から御挨拶を申し上げます。

（知事）

皆さん、こんにちは。第38回青森県総合計画審議会にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

この計画期間が来年2024年度から2028年度までの5か年ということで、まさに私自身の任期そのものになっています。そして、この基本計画は青森県の最上位計画でありまして、ここから毎年度、様々な事業が構想される、生み出されていくということはもちろんのこと、今年、県庁大改革とも言っていましたけれども、行財政改革や、あるいはDXの基本方針など、様々な新しい大きな計画や流れができてくると思います。

今日は答申をいただける段取りになっているようですが、是非、皆さん限られた時間になりますけれども忌憚のない御意見をいただいて、議論を深めていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

冒頭、私からの挨拶は以上とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

（司会）

それでは議事に入りたいと思います。

会議の進行は、佐藤会長にお願いいたします。

佐藤会長、よろしくお願いいたします。

（佐藤会長）

会長を仰せつかっております佐藤です。どうぞよろしくお願いいたします。

時間も限られておりますので、円滑な進行に御協力をいただきたいと思います。

それでは本日の議題であります「次期青森県基本計画答申案」の審議に入りたいと思います。

この答申案をまとめるに当たりましては、委員の皆様におかれまして、2月の総合計画審議会において県から諮問をいただいて以降、長期間にわたりまして、またタイトなスケジュールの中で議論をいただきました。感謝申し上げます。

今回の答申案は、これまでの各部会における御議論や、8月下旬にいただいた委員の皆様からの御意見を踏まえまして、先日、9月1日に開催しました幹事会において取りまとめたものであります。

内容の大筋につきましては、8月の意見照会や事務局から事前に送付いただきました資料により御覧いただいていると思いますが、事務局から概要を説明いただきたいと思います。

それでは、事務局からお願いいたします。

(事務局)

事務局を担当しております企画調整課の奥田です。私から、資料1を使って御説明したいと思います。

おめくりいただきまして2ページ目であります。次期青森県基本計画のポイントということで、4点まとめております。

まず1点目として、人口構造の重要な局面となる2040年を見据えた「めざす姿」を設定するというので、これまでの計画では2030年を見据えた「めざす姿」を設定しておりましたが、今回、県人口が100万人を下回り、高齢化率がピークを迎える2040年を見据えて「めざす姿」を設定するというものであります。

2点目といたしまして、「めざす姿」の実現に向けた7つの政策テーマということで、こちらもこれまで4分野の政策分野を設定しておりましたが、今回、生活局面において県民が重視しているもの、あるいは更なる取組の推進が必要なものといった観点から、7つの政策テーマ(しごと、健康、子ども、環境、交流、地域社会、社会資本)に分類し、それぞれに「めざす姿」の具体像と政策・施策を設定しております。

3点目として、「めざす姿」の実現に向けた重要なキーワード「将来を拓く鍵」ということで、「めざす姿」の実現に向けて、特に重要で必要不可欠なキーワードとして、政策テーマごとに1つ、ないし2つ、「将来を拓く鍵」を設定しております。

4点目として、マネジメントサイクルの展開と取組の重点化ということで、社会経済情勢の急激な変化に対応しながら、機動的に事業立案ができるようマネジメントサイクルを展開するというのと、併せて毎年度「取組の重点化」の基本方針を策定し、知事から各部局に対して指示をすることとしております。

続きまして3ページになります。こちらからが計画の具体的な内容になっておりまして、まず序章は基本計画の策定の目的、基本的な考え方、計画期間となっております。

基本計画の構成につきましては、序章から第6章まで全7章構成としております。

それから一番下ですが、計画期間は5年間、2024年度から2028年度までということになっております。

続きまして4ページになります。第1章、時代の潮流と今後の社会展望ということで、こちらグラフを掲載しておりますが、本県の人口の推移について、2040年は総人口が90万8,974人になり、100万人を下回る時期であります。加えて、一番上の緑のところ、40万3,143人というのが65歳以上人口の数ですが、20歳から64歳の人口よりも多い人数になるのが2040年ということで、非常に本県にとっては重要な局面だと認識をしております。

そういった中で、左下の方ですが将来への明るい兆しといたしまして、県民意識調査を2月に公表いたしました。その中で、県民の皆さんの暮らしやすさや、定住志向の高さというのが改めて確認されたということ、あるいは「新しい生活様式」がコロナ禍を経て定着してきたこと。また、若者のアンケート調査でも、5年前と比べて青森県のイメージが良くなっていると答えた10代・20代の若者が非常に多いということ。その他デジタル化でありますとかグローバル化の進展など明るい兆しがある一方で、右側の方ですが、立ち向かうべき課題として、低水準にある所得状況や長期的な人口減少、あるいは超高齢社会、さらには原材料価格や原油価格・物価高騰など様々な課題があるといった中で、下の方ですが、特に大きな課題はやはり所得の向上であると考えております。

次のページをお願いいたします。第2章、2040年のめざす姿について。人口減少の大きな要因は、若い世代の県外流出とこれに伴う少子化であり、1人でも多くの若者が青森県で人生を送ることに多様な可能性を見出し、「ここで暮らしたい」と思える魅力ある青森県にしていくことが最も重要であるということで、「めざす姿」として、箇条書きで6点記載しております。

主なものとして、まず1点目、「多様なしごとと安定した収入があり、希望する道を選ぶことができる。」あるいは、3点目のところですが、「子どもや若者が、生まれた場所や家庭環境等に左右されずに、学び、成長することができる環境がある。」あるいは、最後のところ、「青森県のヒト・モノ・価値は、国内外で高く評価され、県民はふるさとに誇りと愛着を持っている。」といったことでまとめております。

次のページをお願いいたします。6ページ、めざす姿の実現に向けてということで、先ほど御説明いたしましたが、今回、7つの政策テーマに分類し、それぞれの政策テーマについてめざす姿の具体像と政策・施策、それから「将来を拓く鍵」を設定をしております。

次のページをお願いいたします。第3章、こちらから政策・施策体系ということで、まず1点目「しごと」であります。「将来を拓く鍵」は「所得増につながる生産性の向上」ということで、政策は4本ございます。

1点目が農林水産業、2点目が県内産業の競争力強化、3点目がしごとづくり、4点目が産業を支えるDXの推進としております。

主なポイントといたしましては、1点目が所得向上につながる戦略的な商品づくり、あるいは気候変動や物価高騰等に対応する農林水産業の推進。それから2点目ですが、持続的・安定的な労働力の確保、3点目が創業・起業、あるいは企業誘致による若者の県内定着・還流の促進、4点目がIT事業者と多様な産業分野のマッチング促進、スマート農林水産業の推進などとしております。

次のページをお願いいたします。政策テーマ2「健康」であります。「将来を拓く鍵」は「ヘルスリテラシーの向上」、それから「医療・介護サービス提供体制の強化」としております。

政策は4本ございまして、1点目が健康づくり、2点目ががんの克服、3点目が地域医療サービスの整備、4点目が共生社会の実現としております。

主なポイントといたしましては、1点目として生活習慣改善の促進、あるいは健康づくりを支える仕組みの強化、2点目として1次医療から3次医療までのネットワーク化、3点目としてデジタル技術を活用した業務省力化、広域連携体制の強化などとしております。

次のページをお願いいたします。政策テーマ3「子ども」であります。「将来を拓く鍵」は「少子化への挑戦」と「教育改革の推進」であります。

政策は3本ありまして、1点目が子育て環境に関すること、2点目が子どもたちのための学校教育改革、3点目が包括的な支援の充実・強化ということで、主なポイントといたしましては、1点目が結婚から子育てまでの支援体制の強化、2点目が社会全体で子育てできる環境づくり、3点目が教員の働き方改革、教育プログラムの充実、教育DXの推進、それから4点目として子ども・若者への支援体制・相談体制の充実としております。

次のページをお願いいたします。政策テーマ4「環境」であります。「将来を拓く鍵」は「再生可能エネルギーの推進と自然・地域との共生」ということで、政策は5本あります。

1点目が再生可能エネルギーとの共生と環境配慮型ビジネスの推進、2点目が脱炭素社会の実現、3点目が循環型社会の実現、4点目が自然環境の継承、5点目が原子力施設の安全確保対策と防災対策の充実ということで、主なポイントとしては、1点目が自然・地域と共生する再生可能エネルギーの導入とエネルギーの地産地消の促進、2点目が県内企業のGX推進、3点目が3Rを軸とした資源循環の取組拡大、4点目が生物多様性の保全・再生や環境人財の育成としております。

次のページをお願いいたします。政策テーマ5「交流」であります。「将来を拓く鍵」は2つありまして、1点目「観光消費額の拡大」、2点目「海外戦略の強化」としております。

政策は4本ありまして、1点目が観光、2点目が輸出と物流、3点目が国際交流、4点目を交通ネットワークとしております。主なポイントとしては、1点目が体験型観光コンテンツの充実や滞在型観光の強化による観光消費額の拡大、2点目が総合的な経済連携体制の強化、3点目が県内物流事業者の体制強化、4点目が多文化共生社会の実現、5点目が地域公共交通の存続・最適化の推進、としております。

次のページをお願いいたします。政策テーマ6「地域社会」です。「将来を拓く鍵」は「地

域との多様なつながりの構築」、それから「行政経営分野のDX推進」としております。

政策は3本ありまして、1点目が地域づくり・人づくり、2点目が生活基盤づくり、3点目が文化・スポーツの振興としております。

主なポイントとしては、地域づくりに取り組む市町村や団体等への支援と人財育成の推進。2点目が移住促進と関係人口の拡大。3点目が行政経営分野や暮らし・まちのDX推進。4点目が縄文遺跡群の価値や魅力の発信強化等。5点目が国スポ・障スポに向けた競技力向上と県民の意識醸成としております。

最後の政策テーマ7「社会資本」であります。こちらは「将来を拓く鍵」として、「DXを活用した、インフラ整備と防災・減災の推進」としております。政策は3本ありまして、1点目が安全・安心な県土づくりを推進する社会基盤、2点目が産業・交流を支える社会基盤のそれぞれ整備をするというものです。3点目が防災・減災の推進や危機管理機能の向上ということで、主なポイントとしては、防災減災インフラの整備、あるいは道路等のインフラ整備推進、港湾・空港機能の強化。3点目が防災分野のDX推進、4点目が消防力の総合的向上等としております。

次のページをお願いいたします。14ページになります。第4章、地域別取組方針ということで、こちらは、6地域県民局において今後5年間、重点的に取り組む内容を、圏域ごとの方針として策定しております。

3つ目のポツにありますとおり、各市町村が持つ資源を相互に活用し、役割を補完し合いながら、地域一体となって取り組んでいくものであります。

次のページ、15ページの方にそれぞれの地域ごとの取組方針の柱をまとめております。

次のページをお願いいたします。16ページになります。第5章、マネジメントサイクルの展開と取組の重点化であります。マネジメントサイクルにつきましては、これまでもこの審議会において、県が行う政策点検の結果についての検証や提言をいただいております。それを踏まえて、引き続き、特に重点的に取り組むべき内容を知事から各部局に指示をすることとしております。

それから4点目ですが、今回、新たにOODAループという考え方を用いまして、状況の変化にスピード感を持って機動的に対応していくこととしております。

最後、第6章ですが、計画の推進ということで、計画を進めていくために留意すべき事項として4点、情報発信、あらゆる主体の参画・連携強化と協働の推進、SDGsの理念を踏まえた各種施策の展開、行財政改革の推進を示しております。

最後のページ、今後のスケジュールであります。本日、審議会で答申をいただきました後、県で原案を作成いたしまして、それについてパブリックコメント、それから市町村への意見照会をいたしまして、それらの意見を踏まえて11月の県議会に最終的な県としての計画案を提案するという予定としております。

事務局からは以上でございます。

(佐藤会長)

ありがとうございました。

それでは答申案の修正等について、御意見、その他何かございましたら御発言をお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

それではないようでしたら、答申案につきましてお諮りしたいと思います。この答申案につきまして、審議会として決定することに御異議、ございませんでしょうか。

(異議なし)

ありがとうございます。御異議、ないようですので、答申案については原案のとおり決定して、知事にお渡ししたいと思います。

ここで委員の皆様、次期基本計画の策定に携わっていただきました御感想や基本計画への思いでありますとか、県に期待することなど一言ずついただければと思います。席順に従って御発言いただきたいと思いますので、初めに生田委員からお願いします。

(生田委員)

実は今、県の新産業創造課、弘前大学、八戸学院大学の方々と、あおもり共創ビジネスプログラムに携わっております。総合計画で議論した経験や知識を、こういう個別具体のプログラムや事業の中でも念頭に置いて、総合計画が形になっていくのに少しでも尽力できればなと思っております。

(内田部会長)

今回の知事選にちょうどタイミングが合ったということで、新しい知事の意向に沿った先生方の意見を組み換え、より分かり易くなったかなと思います。非常にいい答申になったと思いますので、これからはOODAループで進んでいただければと思います。

(太田部会長)

青森県の豊かで恵まれた自然環境を、まずもって次の世代に引き継いでいくことが大事と思っております。その上で、次期計画では多種多様な再生可能エネルギーの地産地消、そしてそのことによってエネルギーの収支バランスを改善し、それが青森県の豊かさと、そしてひょっとすれば人口減少対策にもなるのかなとも思っております。

県民の一人として、そのために応援団としてありたいというふうに思っております。

(葛西委員)

2点、感じていることがあります。

1点は、青森県らしさというところです。国が抱える課題や世界の課題、地球が抱えている課題に取り組むのはなかなか難しいかなと思っていて、青森県の独自の特徴などを、何回か会議の中でもお伺いさせていただきました。それを踏まえた上で、県庁にこれをお願いしたいとか、知事にこれをお願いしたいだけではなくて、一人ひとりの住民が、私たちがこうやって一緒に変えていくという意識をどうにかこの計画の中に入れられるといいなということも、何回も申し上げさせていただきました。

(角濱部会長)

安全・安心、健康は県民一人ひとりの生活の基盤になるものでしたので、この7つの政策体系の中の3つにまたがっていて、大変広くて、手をやいたんですが、委員の皆様からいろんな意見をいただいて、そこが盛り込まれたかなと思うことと、7つに政策が整理された時に、めざす姿がすごく見えやすくなり、明るくぱっと開けたところだったんです。本当にこの枠組みは素晴らしいなというふうに思っています。

2040年の姿を見せられた時に、安全・安心、健康は、なかなか良いところが見あたりませんでした。それで、本当に苦労しました。葛西委員もおっしゃったんですけども、誰かが何かしてくれるとか、県がしてくれるとか、市町村がしてくれるとか、住民がやってくれないとか、そういうことだと多分全然立ち行かなくなるし、一つのパイを狭い範囲でかかえ込んでしまうと、もう立ち行かなくなってしまうなということを感じた時に、やはり連携と交流というのがものすごい核になってくる。そうじゃないと私たちの生活を保てないということが、部会長をさせていただいた大きな思いです。

これからに期待しています。

(鎌田委員)

私は2年目でしたけれども、まず話し合いに参加させていただきまして、県の企画調整課はじめ関係各課の将来の姿の資料、分かり易い資料を御提示いただいたことで、非常にいろんな意見を出し易くなりました。また、皆それぞれの立場で審議をしたわけですが、その中でも皆が受け止めながら、一緒に考えながら、有意義な話し合いになったかなと思っています。

角濱部会長も申し上げていましたけれども、やはり青森県の人たちというのは、私は力があると思っています。持っている力をどういうふうに発揮していくか、表に出していくか、皆が力を合わせれば変わることはできると思うんですね。

だから行政主導ということではなく、この計画を広く県民自らが、「じゃあ、やっていこうよ」というふうに、2040年になっていたら素晴らしい青森県になるんじゃないかなと私は期待しております。

(木立委員)

環境について、カーボンニュートラルを目指して話し合ってきたところに、青森がこんなに暑い夏になって、もうますますこれを推進していかなければならないという気持ちになりました。これからも勉強させていただきたいと思います。

(木谷委員)

青森共生社会の実現のために、全ての市町村の実情に合わせた地域包括ケアシステムの構築、進化がすごく大切だと考えています。そのために、住民に最も身近な基礎自治体である市町村が介護保険などの保険者なので、介護保険の体制と施策を軸にまちづくりを進めていくことが重要だと思っています。

計画の第4章に地域別取組方針が掲げられていて、とても分かり易く地域の中でやることが見えてきているので、これを私たちが地域でどのように連携しながら市町村を支援していくのかというのを考えていきたいなと思っています。

(小清水委員)

貿易のお仕事をしておりますので、貿易の立場というところで海外展開、国際交流について現場の声を少しでもお届けできればということで。委員の皆様のお声を聞きながら、また現場の声、非常に厳しい環境にあるところもあるんですけども、県内の事業所、輸出に取り組んだり海外展開に取り組むなど、前向きに取り組んでいる。厳しい環境でも非常に皆さん、頑張っておられます。

そういったお声と、また皆さんと青森の魅力を海外に発信して、もっともっと世界の皆さんに魅力をお届けできればというところ、計画にもございますとおり、ますますこの青森の素晴らしさを世界に広げていければなと願っております。

(紺野委員)

現在、想定以上に観光需要がスピード感をもって回復をしております、いいニュースも今はございます。今であればまだまだやれること、やるべきことというのはまだあると思いますので、単価を上げて、生産性を上げて、どんどん所得を上げるように、稼げるような事業者を皆さんと一緒につくってまいりたいと、今回の議論を通じて感じたところでございます。あとはスピード感であると思っております。

(齋藤委員)

医師会としては健康推進のために「健やか力推進センター」をつくって、県民の中に浸透していっていますけれども、それを市町村あるいは事業所の方に広げながら、一人ひとりの健康に対する思いというのをきちんとできるように、そこを中心にして今後も頑張りたいと思っています。

(佐藤委員)

何年かこの審議会の委員をやらせてもらっているんですけども、今回、一番強く言ったのは人財育成というところです。現場はリタイア者が多くて、生産技術はもちろんですけども、農家の経営力というのが本当に大事だなということを、とにかく入れ込ませていただきました。

広い分野であまりよく分からないんですけども、内田部会長並びに皆様がバックアップしてくださって、素晴らしい答申になったと思います。

(澁谷委員)

今年、最初の審議会の時に、2040年のめざす姿と言われて、どういう姿がめざす姿だろうと考えた時に、若い方も少し年齢を経た方も、わくわくした生活をしたんじゃないかなと思いました。そういうわくわくした生活はどういうことだろうと考えたら、青森に暮らして良かったと思える、青森の文化、風土、これが良かったかなと思える、ここで暮らして良かったかなと思える、そういう生活ができればいいなというふうに思っただけです。そのためにはどうすればいいかということ、教育の分野からいろいろ意見をさせていただきました。

わくわくする生活をめざして、2040年になった時に皆、わくわくした生活を送ればいいなと思っております。

(関下委員)

家族に見てもらったら、例えば少子化問題のところで、結婚から子育てという枠組みになっているのはどうかというのがうちの女性陣たちの言葉でした。

あとは、この項目全体の中に、安全というか国防という部分が含まれていた方がよいというのが私の家族から出てきました。やはりそういう価値観の変化であるとか情勢の変化がものすごく激しいですので、まさしくOODAループを活用するというか、その考え方でどんどん見直しがあってもいいのではないかなというふうに家族は言っておりました。

(竹中委員)

まずは、私自身、毎回の部会で様々な分野で教育・人づくりに携わっていらっしゃる委員の皆様と意見交換をすることができて、本当に幸せに思っておりました。澁谷委員からも先ほどありましたけれども、やはり教育・人づくりにつきましては、現場をつくる大人がわくわくしていることがまずは重要ななと思っていますので、そういう場で議論できたこと、本当に幸せに思っておりました。

青森県の教育、今、大きく変わろうとしているかと思えます。私自身、その動きを楽しみにしながら計画に落とし込ませていただいた内容、例えば国際的なチャレンジの場、交流の場だったり、地域との交流の場だったり、学びの場だったりの創出というところの実践で、また尽力できていたらと思っていますので、どうぞよろしく願いいたします。

(丹羽委員)

NPO法人奥入瀬自然観光資源研究会というところで活動をしていまして、青森県の環境を活かしながら、エコツーリズム推進などをいつも考えて活動をしています。

今回、参加させていただきまして、2040年を見据えためざす姿、悲観的な見込みの中で、ただ青森県ってすごくいろんなポテンシャルがあって、本当に未来は皆で創っていけば素晴らしい場所になると思っております。

子どもたちが未来を見て輝いていけるように、どうやっていけばいいのかというところで、今回、7つの分野に分かれて本当に具体的なこれからの施策を打っていけると思っているのでわくわくしております。

今後、本当に子どもたちが未来を胸を張って生きていけるように、これからも環境のことを考えながら活動をしていきたいと思っております。

(長谷河委員)

基本計画の本体の方を見ますと、注を付けてくださいますので分かり易い内容になっていると思っております。

実現に向けての難易度は、相当に様々なものが含まれていると思っておりますけれども、是非実現に向けて、私自身も一県民として注意を向け続けたいと思っております。

また現状、県内に残りたいと思っている学生も、職種とか収入とか、あと保守的な雰囲気とか、そういうのが原因で外に出て行ってしまうという状況がかなりありますので、そういう状況はだんだん少なくなっていけばいいなというふうに思っております。

(花田委員)

うちの部会は6名の委員の皆さんで、非常に幅広く、また自由に意見交換ができて本当に勉強になりましたし、楽しくやることができたと思っております。

そういった議論をしていく中で、ちょうど宮下知事が就任されて、教育には是非力を注ぎたいということが聞こえてきましたので、そういう中で有識者会議ですか、教員や保護者といったステークホルダーに寄り添った教育改革を進めるということが新聞報道等でありましたけれども、非常に画期的なことだなと思えました。

是非、これから完成するであろう次期基本計画と新しい教育改革、この2つが上手くつながって青森の未来を担う子どもたちの礎となってくれたらいいなと期待しております。

(三上委員)

私は、花田部会長の進行がとてもスムーズだったので、委員のメンバーと本当に楽しく意見交換をさせていただきました。2040年のめざす姿としては、所得向上と経済成長を掲げていらっしゃると思いますが、そのためには地元の企業が活躍できるような、そのような場所や

機会をどんどんお作りいただきたいなと思っております。

もう1つ、県内で生まれた子どもたちがそのことを誇りに思えるような地域になることを心待ちにしております。

(峯委員)

今回、最後にまとめられたのが、知事がこれから本当にやるぞというのが明確に示されていて、本当にわくわくする内容になったと思っています。初めて参加させていただいて、ちょっと勝手が分からないところがあったのですが、部会ごとに議論をして、全体に他の分野でも取り組んでいただきたいことをお伝えするのがちょっと難しかったなと思っています。

例えば、食育なんですけれども、狭い意味では栄養、健康ということで食育の文言は健康の中に入っているんですけれども、広い意味では食に関わる意識と健康を変えていくものなので、どの分野にも刺さっていくことですし、食を絡めると難しい問題でも何でも楽しくなるので、今、これから青森県がますます優位に立てる一次産業に絡めて、そこをリンクした形で食を具体的な様々な施策の中に横串を刺すように入れていただけるといいなと思っています。

(武藤委員)

昨年、青森県の方に赴任させていただいて、その関係で産業・雇用部会で、この重要な計画に関係する議論をさせていただいたこと、本当に貴重な機会をいただきありがとうございましたと思っております。

私のように外から来た者からすると、この青森県というのは本当に素晴らしい魅力のある県で、自然もそうですし文化とか食とか、本当に明らかに素晴らしい県だと思うんですけれども、やはり青森県に住まれている方がどれだけこの県を豊かに感じられているのかというところはすごい重要なところじゃないかなと思っております。そういう意味では、今回の計画の中でも一番重要と言われましたけれども、所得向上としごと、経済成長ということが掲げられておりますけれども、私の現在の立場からそういったことはやはり重要だと思いますし、それを実現する上でいくつか既に書かれていますけれども、それを更に具体的にどう実現していくのかというのは今後の課題なのかなと思っております。

そういう意味では、現時点では私の知見も限られますけれども、これから更に考えを深めて、知事が御就任されて本当に県民の期待がすごく今高まっていると思いますので、そういったことをサポートしていける、具体的な考案として何かやっていけることはないかと、これからは微力ではありますが貢献させていただきたいなと思った次第でございます。

(佐藤会長)

皆様、ありがとうございました。いろいろ御意見をいただきましたが、県の方でも引き続き原案ということで検討いただけると思いますので、どうぞよろしくお願ひしたいと思ひ

ます。

それでは、以上で本日予定しておりました議事は終了しましたので、事務局へお返ししたいと思います。

(司会)

それでは、ただ今、決定されました答申について、佐藤会長から知事にお渡ししたいと思います。

報道機関の方は、写真撮影がございましたら会場中央までお越してください。

<知事へ答申>

ありがとうございました。

佐藤会長はお席にお戻りください。

ここで宮下知事から御挨拶がございます。

(知事)

改めて皆さんの思いをお聞かせいただいて、しっかりこれは取り組まなければいけないなど、当たり前ですけれども改めてそう感じています。まず心から、取りまとめていただいたことに感謝を申し上げたいと思います。ありがとうございます。

今、皆さんのお話を聞いていて思い出したことが1つあって、最近、高校で対話集会をやってまいりました。新聞やテレビでも報道があったので見られた方もいらっしゃるかもしれませんが。

対話集会、どういう形式で行ったかという、代表の高校生5人～6人から一人ずつ質問をいただいて、それに対して答えるという形だったんですね。もちろん、どういう質問が事前に来るのかということも把握していましたし、こういうふうに答えたら？というのを事務方からもいただいていた。ただ、私自身はほとんど読まずにいて、現場で自分の言葉で答えようというふうに思っていたんです。

そうしたら、高校生からこういう話があって、「自分は公務員を目指しています。青森県に残りたいんだけど、通学が片道1時間半かかって大変で、お金もかかるし、親にも負担をかけている。だから交通費などが定着する人に援助されれば、青森県に残る若者が多くなるんじゃないですか」と、そういうお話がまず1個。

それから、やはり高校生らしくて、「遊ぶ場所が少ない」ということで、テーマパークだとか、あるいは映画館、水族館、動物園だとか、そういうのが欲しいという話があったんです。

私とその2人に共通して述べたこと、最初の子に申し上げたのは、「あまり親のことを考えなくていいんじゃない？」と。「自分のことをよく考えた方がいいよ。親に迷惑をかけているということはあまり考えずに、自分の将来のことをしっかり考えて、自分自身でできることをやったらいい」と。「通学に1時間半かかってしまって、やりたいことができない」

ということも言っていた。「じゃあ、やりたいことって何？」と聞いたら、いろいろ言っていたんですけども。最後は本人が自分で気づいて、「それってできるかもしれませんね」みたいな話をした。

親のことも考えないで自分のことに集中してやって、警察官になって青森県に残って、それで警察官として活躍した方が親御さんもきっとあなたのことを誇りに思うと思うし、そっちの方がいいんじゃないの？と。

「お金の話と定着の話って、どうつながるの？」と、あえて率直に聞いてみたんですけど、もちろん答えられないですよ。多分、お金を軽減したからといって県内に定着するというのは、まあ全体の一部ではあると思いますけれども、そういう政策はやらなければいけないことの一つかもしれませんけれども、直接にはたぶん、つながらない。それはたぶん彼も理解したと思います。

もう1人の子に申し上げたのが、「結局、やってくれ、やってくれと言われたって、知事って一体どういう存在か知っている？」って。単に県庁という機構のトップにすぎないんだ。確かに県庁という組織は8千億ぐらい予算があって、様々な事業を展開できる、そして公的な事業を展開できる主体ではあるけれども、青森県のリーダーかのように、まあ振る舞う時もありますけれども、というのはあまりにも大げさだよ。120万人いますからね。県庁の職員というのは3千人ぐらいしかいませんから、それは大げさなんじゃないかと。

そのことをよく考えた時に、それじゃあ何をどうしたらそういうものができるかということを考えてほしいと。都市構造の話は教えました。都市構造として、例えば50万人ぐらいいれば遊園地ができたり、30万人ぐらいいれば水族館ができたり、映画館というのは10万人ぐらいいればできる。それは商圈と都市構造の話でそういうものができるから、できる・できないというのは商業ベースで実は決まっているんです。

商業ベースだけじゃなくて、小さい町に小さい映画館があったりすることはあるけれども、そこにはじゃあ誰の努力があってできるかということのを考えたことはありますか？と。それは、そこに行ける、そういうのが本当に欲しくて皆のためになるという民間の人がやっているんだよ。

つまり、最初の子にも次の子にも共通して言いたかったのは、自分たちの力でこの青森県を良くしようと思う意思と、その具体的な行動がなければ、やはり青森県は良くならない。高校生はとても素直なので、私はこれ、伝わったかなと思って、たまたま帰った時にテレビをついたら6時のニュースでやっていたので見たら、参加している子がまさにそういう話をしてくれていた。「自分たちで考えて自分たちで主体性を持ってやらなければ青森県は変わらないんだということが、今回の対話でよく分かりました」ということを言ってくれていた。「ああ、良かった、伝わったな」というふうに思いました。

先ほど皆さんの中からもそういうお話があって、計画を実行していくというのは私たち、知事と県庁の仕事ではないんですよ。これを広く県民の皆様にお示しをして、あらゆる主体の参画を得てやっていかなければいけないことだというふうに思っています。それは参画の

具合だとか、主体的な参画とかあるいは協働という言い方、それがどれだけできるかが本県のこれからの浮沈にかかっていると私は思っている。独自のメディアをしっかりと立ち上げて、県民に向けて発信を続けて様々な政策の協力をこれからしっかりと仰いでいきたいと思ひますし、その過程の中で皆さんからいただいた意見をしっかりと政策に反映していきたいと考えています。

そのキーワードは、やはり対話だと思うんです。対話というのは一方的じゃないので、陳情とか要望ということのように一方的ではないので。私自身も高校生からそういう話を聞いたら高校生に言いたいことはたくさんある。「何でそんなに頼るの？自分たちで切り拓いていくのが自分たちの未来でしょう」と。これ、絶対言わなければいけないこと、大人が、私自身が。それで気づいてくれた子は、きっとそういうふうなマインドになっていく。

だから、こういう対話を県民の皆様とし続けることによって、より良い協働、主体的な参画が生まれていくような土台を、是非この基本計画をベースに私はつくっていきたく思っています。

それに加えて、やはりDXはとても大事だと思っています。これはあらゆる分野で圧倒的に進めていかなければいけないです。今まで、青森県はあらゆる分野で本当に遅れてきました。何でもかんでも遅れていますけれども、DXは始まったばかりなので、これはまだいける可能性がある。高齢者がどうだとか様々なことを言われるのですが、これはもうこの基本計画をベースに進めます。

それからもう1つは、やはりマインドですよ。マインドセットがものすごく大事で、DXを進めるにしても対話をして主体的な参画を促すにしても、やはり挑戦のマインドというのは大事ななだと思ひます。計画は作った時点から、それを乗り越えていく、そういうマインドで私はしっかりと挑戦をしていきたいと思っています。

せっかくこうして皆さんに集まりをいただきました、そして多くの意見をいただいたと伺っております。この答申をしっかりと施策にして、そして沢山の人たちを巻き込みながら青森新時代をしっかりとつくっていきたく思っておりますので、引き続き皆さん、御協力をよろしくお願いいたします。

本日、そしてこれまでの議論、本当にありがとうございました。

(司会)

これをもちまして第38回青森県総合計画審議会を閉会させていただきます。

皆様、大変ありがとうございました。